令和6年度第4回埼玉県児童福祉審議会議事録

令和6年度第4回埼玉県児童福祉審議会

1 日 時 令和7年1月8日(水)～令和7年1月15日(水)

2 開催方法 書面開催

3 審議事項等

「埼玉県こども・若者計画(仮称)」の計画案について

3 出席委員(18名) ※委員長・副委員長以下50音順

田 口 伸 委員長	寺 菌 さおり 副委員長
逢 澤 圭一郎 委員	石 丸 靖 子 委員
川 澄 馨 子 委員	神 山 幸 恵 委員
坂 本 仁 志 委員	清 水 将 之 委員
鈴 木 勝 委員	菅 原 文 仁 委員
塚 越 優 子 委員	長 根 亜紀子 委員
藤 野 美佐子 委員	福 田 由美子 委員
保 角 美 代 委員	本 田 尚 美 委員
峯 眞 人 委員	若 山 清 和 委員

4 審議結果

「埼玉県こども・若者計画(仮称)」の計画案について、委員から意見・質問が出され、事務局から回答した。

※ 詳細は別紙「第4回埼玉県児童福祉審議会 各委員からの御意見・御質問等とその対応案」のとおり

第4回埼玉県児童福祉審議会 各委員からの御意見・御質問等とその対応案

別紙

御意見・御質問等(要約)	対応案
<p>「総論5(6)ヤングケアラー」について。高校生のヤングケアラー実態調査の結果は記載されているが、小中学生のヤングケアラーの実態について、すでに調査していれば結果を計画に記載し、調査していなければ今後調査していく旨の取組を追加してほしい。</p>	<p>高校生を対象とした実態調査のうち、小中学生にもヤングケアラーがいることを示す「ケアの開始時期」の結果を計画に追記いたします。</p>
<p>取組番号3「子育てに悩む保護者、また、身の回りの出来事に関して悩みを抱える子どもからの相談を受ける電話相談窓口として「子どもスマイルネット」を設置し、相談者の気持ちに寄り添って話を聞き、いじめ、体罰、虐待など子どもに関わる様々な悩みに関する相談を行います。」について。 様々な相談先があり、相談する子どもに相談先を使い分けさせるのではなく、スマイルネットなどが総合窓口としてワンストップで相談先を一元的に案内することが必要ではないか。</p>	<p>子どもスマイルネットは、子どもに関するどんなことでも相談できる窓口となっており、相談内容に応じて関係機関と連携して対応しています。御意見を参考に、スマイルネットと関係機関の連携の充実など、一元的に相談先が案内できる仕組みを検討してまいります。</p>
<p>子どもの居場所に関する取組が取組番号19、20、22とあり、21が間に入っている。21を移動し、子どもの居場所に関する取組をまとめた方がよいのではないか。</p>	<p>御意見を踏まえ、取組の記載順を変更いたします。</p>
<p>取組番号78以降はひとり親家庭の支援を記載しているが、ひとり親家庭のほかにも、多胎児家庭など、様々な家庭に関する支援の取組を追加してほしい。</p>	<p>御意見を踏まえ、多胎児家庭などの様々な家庭に支援を実施することを「9(2)「孤育て」にしない地域の子育て力の充実」に追記いたします。</p>
<p>取組番号117「不登校・いじめ等の課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置や生徒指導重点校の指定など、教育相談体制の整備・充実を図ります。また、「中一ギャップ」の解消を図るため、小中一貫教育構築の支援に取り組めます。」について。 不登校といじめが並列で書かれていることは適切ではない。いじめは課題だが、不登校は必ずしも課題とは限らない。</p>	<p>御意見を踏まえ、「課題」という文言を削除するとともに、「不登校・いじめ等」を「不登校児童生徒等」に修正いたします。</p>
<p>指標3「子どもの居場所数」について。居場所にもユニバーサル型(非登録制)とターゲット型(登録制)があるのに、どちらかが小学校区に一個あればいいのか。ユニバーサル型やターゲット型など多様な居場所を整備する分も含めて数をもう少し増やしてもよいのではないか。</p>	<p>子どもの居場所が、子どもたちが歩いて通える場所にあるよう、公立小学校の数を目安として設定した800か所を超える居場所の設置を目標に、立ち上げ支援を中心とした取組を進めてまいりました。 子どもの居場所をどの程度設置するかは市町村が検討し計画的に進めるものです。 子どもの居場所の量だけでなく質の確保を図るため「子どもの居場所等地域ネットワークのある市町村数」を新たな指標として設定いたしました。 今後は、立ち上げのみならず、居場所づくりを一過性のものにならないよう、また子どもたちにとって大切な居場所が長く続くよう、継続していくことも重要と考えているため、引き続き800か所以上を目標としております。</p>
<p>指標38「男性の育児休業取得率」について。 男性の育児取得率だけでなく、取得日数も増加するように取得期間の重要性について理解が進むような取組を追加してほしい。</p>	<p>御意見を踏まえ、「12(2)共働き・共育での推進、男性の家事・育児の促進」に記載の男性育児取得促進の取組に「セミナー等の実施等により」を追記します。 セミナー等を通じて、取得日数の重要性も含め理解が進むよう取り組んでまいります。</p>

御意見・御質問等(要約)	対応案
<p>指標4「主体的に社会に参画していく力を育成するために外部機関と連携した取組を実施している高等学校の割合」について、具体的にはどのような高校で「外部機関と連携した取組」があるのか、また目標値100%となる見通しの根拠について御教示いただきたい。</p>	<p>外部機関との連携を実施している高校は、普通科、専門学科、総合学科など様々であり、全日制課程のみならず定時制課程でも取り組まれております。また、主な外部機関との連携先及び実施内容については、選挙管理委員会による模擬選挙、各税務署による税・財政制度等の説明、年金事務所による年金制度等の説明、国民生活センターによる契約トラブル対策等が挙げられます。なお、主体的に社会に参画していく力を育成するために、学校教育においては、総合的な探究の時間も含めた様々な場面で、主権者教育及び外部機関との連携を推進しているところであるため、目標値として決して高すぎるわけではないと考えています。</p> <p><参考> 主権者教育は、主権者教育推進会議『今後の主権者教育の推進に向けて(最終報告)』において、「現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断する手掛かりとなる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を踏まえて習得する」とも示されているため、公民科をはじめとする教科における取組だけでなく、総合的な探究の時間における取組も主権者教育の意義を有しています。</p>
<p>P.54の「子ども等が意見表明を表明する機会の確保」について、取組番号12では「施策に子ども等の意見を反映するために、支援員を養成します・・」のように読める。一方、より意見表明支援員が必要となる場面は、むしろ、取組番号13、150のような社会的養護や一時保護の場面における子どもの意見表明の方だと思う。「施策に反映するために、支援員を養成」と読める文脈が気になる。</p>	<p>御意見のとおり、社会的養護が必要な子どもの意見表明の支援には、子どもの意見傾聴や意見形成に関する内容を含む専門的な知識や技術が必要です。子どもたちの意見を聴く場面は、社会的養護が必要な子どもを対象とするのみでなく、アンケートやヒアリング、意見交換会など様々な手段で、子どもに関する施策について広く意見を聴くこともあり、そうした場面で子どもたちの意見を表明を支援する人材の育成をしていくことも取組に記載しているものです。</p>
<p>取組番号351「各市町村との連携の下、学校において障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ支援籍学習や心のバリアフリーを育む交流及び共同学習の充実を図ります。」について、障害のある子どもは、成長するにつれて共に学ぶ時間が少なくなっていくので、交流や共同学習を充実させていただきたい。また、障害のない子どもにも、障害のある子どもが困っている感覚を知ってもらいたい。仲良くなる機会が増えたと、愛情が生まれる事も期待したい。認定子ども園に在籍する年齢だと自然な形の共存生活が送れるが、年齢が上がると少しずつ難しくなるのではないかと考える。</p>	<p>障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ取組を実施するにあたり、御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>取組番号360「いじめや不登校などについて、「彩の国 よりそみんなの電話・メール教育相談」で相談を実施します」について、「彩の国 よりそみんなの電話・メール教育相談」の周知をしっかりといただきたい。学校内にポスターとして数か所貼ったり、さっと取れるカードを数か所設置する等していただきたい。</p>	<p>御指摘のとおり、相談先の周知の充実は重要であるため、御意見は今後の取組の推進に当たり参考にさせていただきます。</p>
<p>取組番号368「教職員に対する研修や教育相談体制の充実を図り、いじめの未然防止、早期発見・早期対応につながる取組を推進します。また、埼玉県いじめ問題対策会議等を通じて、関係機関が一体となって、いじめ問題の根絶に取り組めます。」について、いじめの未然防止は主に周りの大人のアンテナに左右するのではないかと考える。研修や現場で学んでいただきたい。また、子どもが他者との関わりについて学ぶことが大切だと感じる。自分の心の持ち様や、他者との対応の仕方やコミュニケーションの取り方を学習する場を沢山設けていただきたい。</p>	<p>取組番号368に、いじめの未然防止等のための教職員に対する研修について記載しています。御意見は、今後の取組の推進に当たり参考にさせていただきます。</p>
<p>P.63に「インクルーシブ教育の視点にたった」とあるが、この言葉はまだ一般的ではないので、P.74にある「意見表明を支援する(アドボケイト制度)のような表現にしてほしい。包括的教育(インクルーシブ教育)</p>	<p>上位計画である県5か年計画や、本県教育の目標や施策体系を示す県教育振興基本計画において、「インクルーシブ教育」と記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。計画に記載の様々な取組を通じて、共生社会の実現を目指す教育を進めてまいります。</p>

御意見・御質問等(要約)	対応案
<p>取組番号138の休日夜間もつながる電話相談制度の記載に関し、その次の取組には「迅速かつ適切に対応」と記載があるが、埼玉県には以前72時間以内に連絡をとる、というルールがあったと記憶しているが、そのルールはなくなったのか。</p>	<p>埼玉県では、警察からの虐待通告など、通告時点でこどもの安全確認がなされている場合を除き、虐待通告があった全てのケースについて48時間以内の安全確認を行っております。引き続き、迅速かつ適切な対応に努めてまいります。</p>
<p>「6(3)子ども・若者の性犯罪」について。 2つ目の取組に「被害の早期回復及び軽減」とあるが、被害者は同じ質問を何度も(違う立場の人たちからでも)聴取されることはストレスに感じる。関係機関同士の情報の供用が必要である。</p>	<p>他機関との連携が必要な場合は、相談者の同意を得た上で情報を共有し、相談者の負担軽減に努めます。</p>
<p>取組番号360「いじめや不登校などについて、「彩の国 よりそみんなの電話・メール教育相談」で相談を実施します。」について。「いじめ」の定義を記載するとわかりやすいのではないか。</p>	<p>上位計画である県5か年計画や、本県教育の目標や施策体系を示す県教育振興基本計画において、「いじめ」の定義を記載していないため、原案のとおりとさせていただきます。 計画に記載の様々な取組を通じて、いじめの未然防止や早期発見、早期対応に取り組んでまいります。</p>
<p>「子ども応援ネットワーク埼玉」の活動は、子ども全般への応援そしていわゆる貧困家庭に対する支援も行っていると認識している。「4(1)「子どもの貧困」対策の推進 イ 生活支援」には、「子ども応援ネットワーク埼玉」の活動があげられていないが、「4(2)ひとり親家庭への支援 ア 経済的自立と生活支援」には取組番号82にあげられている。ひとり親家庭が貧困家庭に該当する割合が高いという現状はあるが、「子ども応援ネットワーク埼玉」の活動を取組の1つとしてあげるのであれば「4(1)イ 生活支援」においてもあげる方が適切かと思う。</p>	<p>御指摘を踏まえ、「4(1)イ生活支援」に、子ども応援ネットワーク埼玉の取組を追加します。 また、ひとり親家庭を含め広く支援を実施していることから、原案をひとり親家庭「等」に修正します。</p>

議事の内容について、以上のとおりで相違ありません。

委員長 田口 伸

署名委員
委員 神山 幸恵

委員 福田 由美子